



森からのプレゼント

梵珠少年自然の家

1 活動のねらい

- 活動の思い出となる手づくりの記念品を作り上げることができます。
- 道具の安全な使い方を習得することができます。

【教科への対応】 小学校：図画工作など
中学校：美術、技術・家庭など

2 活動の概要

木の板に小枝や松ぼっくりなどの自然物を飾り付け、壁かけ等を作る活動です。通常バージョンの他に、梵珠で撮影した写真を即プリントアウトして写真を貼付する「フォトフレームバージョン」も作ることができます。



＜通常バージョン＞

- (1) 人数 160人以内
- (2) 対象 小学5年生～中学生・高校生
- (3) 期間 4月～11月
- (4) 時間 2～3時間（説明20分+活動100～160分）
- (5) 場所 体育館、研修室1・2、キャンプセンター
- (6) 経費 60円
※フォトフレームバージョンの場合、
写真の印刷1枚につき40円かかります
- (7) 指導 製作方法等について、自然の家職員が説明（直接または間接指導）を行う。



3 準備物

団体	救急薬品、必要に応じてデジタルカメラ
個人	軍手、小枝や松ぼっくりなどの木の実、葉っぱなどの自然物、ビニール袋
自然の家	材料：A5版程度の板、木の輪切り数種（5個／1人）、麻ひも、豆類（黒豆は5個／1人） ※フォトフレームの場合：専用写真用紙 用具：のこぎり、油性ペン、鉛筆、はさみ、木工用ボンド、ホットボンド、両面テープ、剪定ばさみ、ピンセット、延長コード、電動ドリル、紙やすり、作業板 ※フォトフレームの場合：専用フォトプリンター その他：バケツ水

4 引率者の役割分担

代表責任者	1名。全体の総括、指揮、連絡にあたる。
活動支援者	数名。子どもたちの活動を支援し、安全と事故防止に努め、緊急時に対応する。

5 活動の流れ

	通常バージョン	フォトフレームバージョン
説明	<ul style="list-style-type: none"> 参考作品を提示しながら、作り方について説明 用具の使い方と安全について説明 	
活動	<ol style="list-style-type: none"> ① 自然物を採集する。 <ul style="list-style-type: none"> 材料になる枝や木の実などは、落ちているものだけを採集する。 ② 採集してきた自然物で何を作るかイメージする。 <ul style="list-style-type: none"> 板の上に自然物を配置し、イメージを膨らませる。 (例) ウサギ、昆虫、雪だるまなど自由に発想する。 ③ ひもを通す穴をドリルであける。 <ul style="list-style-type: none"> ※ドリルは大人が扱う。 ④ ホットボンド等で接着する。 <ul style="list-style-type: none"> どんぐりをくっつける時は、接着面を紙やすりで、削ると接着しやすい。 ※細かい部品の接着の際には、ピンセットを使う。特にやけどに注意が必要。 必要に応じて、枝を切ったりペンなどで彩色したり、文字等を書き込んだりする。 ⑤ ひもを通して完成。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 自然物を採集する <ul style="list-style-type: none"> ※時間がない場合は、あらかじめ採集したものを使う。 ② 何を作るかイメージする。 ③ ひもを通す穴をドリルであける。 <ul style="list-style-type: none"> ※ドリルは大人が扱う。 ④ 写真を貼る <ul style="list-style-type: none"> 両面テープで貼る。 ※写真はあらかじめ、専用のフォトプリンターを使い、引率者がプリントしておく。 ⑤ 写真の周りに自然物を接着する <ul style="list-style-type: none"> ホットボンドでくっつけてもよいが、火傷が心配な場合など、両面テープでくっつけることも可能である。 フォトフレームなので、規則性のある模様や文字などを装飾してもよい。 ⑥ ひもを通して完成。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 感想発表や友達の作品の鑑賞 用具の返却と後片づけ 	



6 実施上の留意点

- 様々な自然物を収集しやすい秋季の実施が適している。

7 安全に実施するためのポイント

- ホットボンドによるやけどや、剪定ばさみ等でのけがを防止するためなるべく軍手をつけて作業する。
- やけど防止用のバケツ水を用意する。
- 低、中学年が実施する場合は大人がつくか、接着に両面テープを使用することを推奨する。

【改訂ポイント】

料金改定
※材料費の値上がりにより写真印刷代を改訂した。

口金がとても熱くなるので、やけどの危険がある。

できたばかりの接着剤もとても熱いので、注意する。



本体が十分冷えてからコードをむすび、返却する。